

| 品目 | 病害虫名 | 発生予報 | 病害虫名 | 発生予報 |
|-------|-----------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 水稲 | 葉いもち | 発生時期: 平年並 発生量: 平年並 | コバネイナゴ | 発生時期: 平年並 発生量: やや少 |
| 夏秋トマト | 疫病 | 発生量: 平年並 | アザミウマ類 | 発生量: 多 |
| | 灰色かび病 | 発生量: 平年並 | コナジラミ類 | 発生量: やや少 |
| 夏秋なす | うどんこ病 | 発生量: やや多 | アザミウマ類 | 発生量: 多 |
| | すすかび病 | 発生量: 平年並 | コナジラミ類 | 発生量: やや少 |
| | 灰色かび病 | 発生量: 平年並 | ハダニ類 | 発生量: 平年並 |
| いちご | うどんこ病 | 発生量: 平年並 | ハダニ類 | 発生量: 多 |
| | 炭疽病 | 発生量: 平年並 | — | — |
| きく | 白さび病 | 発生量: 少 | ハダニ類 | 発生量: 平年並 |
| | アザミウマ類 | 発生量: 多 | — | — |
| 作物共通 | オオタバコガ | 発生量: 多 | ハスモンヨトウ | 発生量: 平年並 |
| | シロイチモジヨトウ | 発生量: 平年並 | — | — |

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。
宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>
次回、発生予報第5号の発行日は7月8日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
メルマガ
トップページ 登録フォーム



ー7月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月13日～6月18日

定点調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台6月20日発表

1 発生予報

| 病害虫名 | 発生時期 (発生開始期※) | 発生量 |
|------|------------------------|-----|
| 葉いもち | 平年並 7月第1半旬(7/1～7/5) | 平年並 |

※発生開始期: 予防的防除を行わなかった水田において病斑が確認され始める時期

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(/-)。また、残苗の放置筆率は平年よりやや低く、発病した残苗は確認されなかった。(/-)
- (2) 平均気温が19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予報されている。(±/±)

| 病害虫名 | 発生時期 (本田侵入盛期) | 発生量 |
|--------|--------------------------|-----|
| コバネイナゴ | 平年並 (7月第2半旬:7/6～7/10) | やや少 |

予報の根拠

- (1) 6月第4半旬の定点調査(雑草地)の結果、幼虫は若齢幼虫が主体であった。(±/)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(-/)
- (3) 巡回調査の結果、畦畔際の発生量は平年(過去8か年の平均値)より少なかった。(/-)
- (4) 前年の発生量がやや少なかったことから、越冬密度はやや少ないと推測される。(/-)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 葉いもち

- ・本田でのいもち病の発生源となるため、補植終了後の苗は速やかに除去し、裏返す等、適正に処分する。
- ・箱施用剤を使用していない場合は水面施用剤による予防防除を実施する。
- ・予防防除を実施した場合でも、発病が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除する。
- ・BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の推定結果は、以下のHPを参照する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

(3) コバネイナゴ

- ・齢が進んでから薬剤散布を行うと防除効果が低下するので、中齢幼虫(体長1.5cm程度)が見られる本田侵入盛期までに防除を行う。

(4) フタオビコヤガ

- ・ 本虫における被害は出穂の遅れや登熟歩合の低下などを引き起こすことがあるため、必要に応じて防除を実施する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

－7月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:6月12、18日

天候予報:仙台管区气象台6月20日発表

1 発生予報

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|------|------|-----|
| 疫病 | － | 平年並 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ -)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|-------|------|-----|
| 灰色かび病 | － | 平年並 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|--------|------|-----|
| アザミウマ類 | － | 多 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/ ±)、寄生花率及び被害果率は平年より高かった。(/ +)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|--------|------|-----|
| コナジラミ類 | － | やや少 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+) : 遅くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (-) : 早くなる要因 (空欄) : 該当せず
発生量…(+) : 多くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (-) : 少くなる要因 (空欄) : 該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。

- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
- ・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に栽培管理を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2) 疫病

- ・20℃前後の多湿条件下で発生が助長されることから、換気を適切に行う。
- ・一度発生すると急激に蔓延するため、発生初期に防除を徹底する。

(3) 灰色かび病

- ・多湿条件下で発生が助長されることから、換気を適切に行うとともに、適切に脇芽取りや誘引を行い、風通りの良い草姿を維持する。
- ・咲き終わった花卉が第二次伝染源になるので、手で取り除くかブローで吹き飛ばす。

(4) アザミウマ類

- ・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛込に注意する。
- ・卵から成虫までの発育期間は25℃で約14日であるので、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(5) コナジラミ類

- ・ほ場をよく見回り、発生初期からの防除を徹底する。

(6) オオタバコガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ

- ・発生予報第4号「作物共通害虫」を参考にする。

(7) トマトキバガ

- ・防除情報第3号「トマトキバガ」を参考にする。

農薬危害防止運動施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—7月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:6月13、18日

天候予報:仙台管区气象台6月20日発表

1 発生予報

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|-------|------|-----|
| うどんこ病 | — | やや多 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 気温 25～28℃、湿度 50～80%が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|-------|------|-----|
| すすかび病 | — | 平年並 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 気温 23～28℃かつ多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ ±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|-------|------|-----|
| 灰色かび病 | — | 平年並 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|--------|------|-----|
| アザミウマ類 | — | 多 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は高く(/ +)、寄生花率は平年よりやや高かった。(/ +)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|--------|------|-----|
| コナジラミ類 | — | やや少 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|------|------|-----|
| ハダニ類 | — | 平年並 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率はやや高く(/+)、寄生頭数は平年並であった。(/±)
 (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (−):早くなる要因 (空欄):該当せず
 発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (−):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺やほ場内の雑草は害虫の発生源となるので、除草を徹底する。
- ・植物体の過繁茂は病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に整枝剪定を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・天敵製剤や訪花昆虫を使用しているほ場では、天敵や訪花昆虫への影響日数に注意して使用する薬剤を選択する。
- ・同一薬剤を多用すると抵抗性が発達する恐れがあるので、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) うどんこ病

- ・多発時は散布間隔を短くし、4～5日間隔でFRACコードが異なる薬剤をローテーション散布する。

(3) アザミウマ類

- ・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛込に注意する。
- ・卵から成虫までの発育期間は25℃で約14日であるので、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(4) コナジラミ類、ハダニ類

- ・ほ場をよく見回り、発生初期からの防除を徹底する。

(5) オオタバコガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ

- ・発生予報第4号「作物共通害虫」を参考にする。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

| | | |
|-----------------|---------------------|--------------------------|
| 令和6年度 発生予察情報 | 発生予報第4号—いちご— | 令和6年6月24日発行 宮城県病害虫防除所 |
|-----------------|---------------------|--------------------------|

—7月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:6月12～14日(親株)

天候予報:仙台管区気象台6月20日発表

1 発生予報

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|-------|------|------------|
| うどんこ病 | — | 平年並 |

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/ ±)、発病株率はやや低かった。(/ -)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|------|------|------------|
| 炭疽病 | — | 平年並 |

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(例年、この時期の調査では発生は確認されていない)。(/ ±)

(2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|------|------|----------|
| ハダニ類 | — | 多 |

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生地点率はやや高く(/ +)、寄生頭数は多かった。(/ +)

(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- 適切な肥培管理及び予防防除を徹底し、健苗育成に努める。
- いちごの農薬使用回数は、親株からランナーを切り離れた時点から収穫終了までとなる。
- 本ぼにおける初期病害虫の発生の多くは育苗からの持ち込みが原因であるので、親株・育苗期間中もしっかり防除を行う。
- 施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- IPM体系による防除は下記を参照する。

※宮城県いちご IPM マニュアル 2019 年版(PDF:6,731KB) https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/ichigo-ipm.html

- 定植後に天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。

・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2)うどんこ病

- ・最初に葉裏に発生しやすいので、こまめに葉裏を観察して早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。
- ・夏季の高温で発病が一時減少するよう見えるが、菌糸で越夏し、気温の低下とともに蔓延するので、きちんと予防防除に努める。

(3)炭疽病

- ・発病株は伝染源となるので、ほ場内をよく見回り、見つけ次第早急にその周辺の株も含め抜き取り適切に処分する。
- ・水滴の跳ね上がり等で伝染するので、育苗ほでは可能な限り頭上かん水は避け、かん水チューブや底面給水等によりかん水を行う。また、葉の濡れ時間が長くないよう遅い時間のかん水は避け、日没までに水滴が乾くよう実施する。
- ・発病株の残渣が土壌中に残り伝染源となるため、使用資材は農業資材用の消毒剤で洗浄するか、更新する。
- ・高温多湿は病原菌の増殖に好適であるとともに、苗が軟弱になり炭疽病にかかりやすくなるとされるので、ハウスの排水対策を徹底する。また、遮光率の高い遮光資材はかけっぱなしせず開閉し、イチゴに当てる日照量を増やすなどして健全育苗に努める。
- ・予防散布の徹底が重要であるので、薬剤抵抗性の発達を防ぐため FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、QoI 剤 (FRAC:11) の耐性菌が確認されているので留意する。

(4)ハダニ類

- ・人に付着し移動するので、発生が少ないハウスから作業を行うなどし、発生の多いハウスでの作業は後半で行う。
- ・定植前の高濃度炭酸ガス施用は効果が高いが、苗へのハダニの寄生数が多いと高濃度炭酸ガス施用の効果が不十分になるおそれがあるので、親株～育苗期も防除に努める。
- ・気門封鎖剤は物理的に作用する薬剤であり、対象害虫にかかると効果が得られないため、植物体全体にムラなく丁寧に散布する。
- ・ほ場により効果が低下している殺ダニ剤があるため、薬剤の選定に留意し IRAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー7月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月14～17日

天候予報:仙台管区气象台6月20日発表

1 発生予報

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|------|------|-----|
| 白さび病 | ー | 少 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ー)
- (2) 15～20℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ー)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|--------|------|-----|
| アザミウマ類 | ー | 多 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び被害葉率は平年より高かった。(/+)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|------|------|-----|
| ハダニ類 | ー | 平年並 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ー)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>
- 薬剤散布の予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に前倒して防除を実施する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ウイルス病はアザミウマ類やアブラムシ類によって虫媒伝染する。伝染源となる罹病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。

(2) 白さび病

- 罹病葉や残渣が原因となって感染が拡大するので、罹病した部位は早めに摘み取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 葉裏の初期病斑を見逃さないようよく観察し、薬剤は葉裏にも丁寧に散布する。
- 窒素質肥料の多用を避け、適切な肥培管理に努める。

(3)アザミウマ類、ハダニ類

- ・多発後は防除が困難であるため、ほ場をよく観察し、発生初期の防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草は、発生源となるので除草に努める。
- ・薬剤防除の効果が著しく劣る場合、薬剤抵抗性が発達している可能性があるため、IRAC コードの異なる薬剤を散布する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー7月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月13～18日

定点調査は:名取市高館(農業・園芸総合研究所)、大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台6月20日発表

1 発生予報

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|--------|------|-----|
| オオタバコガ | — | 多 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、夏秋トマトおよび夏秋なすの被害果率が平年より高かった。(/ +)
- (2) フェロモントラップ調査(地点数:2)において、越冬世代の誘殺数が多かった。(/ +)
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|---------|------|-----|
| ハスモンヨトウ | — | 平年並 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(夏秋トマト、夏秋なす)。(/ ±)
- (2) フェロモントラップ(地点数:2)での誘殺数は平年並であった。(/ ±)
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|-----------|------|-----|
| シロイチモジヨトウ | — | 平年並 |

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(夏秋トマト、夏秋なす)。(/ ±)
- (2) フェロモントラップ(地点数:1)での誘殺数は平年並であった。(/ ±)
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・多くの植物を餌にする広食性害虫であり、野菜、花き等の多くの作物を加害するため、こまめにほ場を見回り早期発見に努め、中齢幼虫までに薬剤防除を行う。
- ・幼虫の齢期が進むにつれて防除効果が低下するので、若齢幼虫期での防除を心がける。
- ・施設栽培では開口部へ防虫ネットを設置し、成虫の施設内部への侵入を防ぐ。
- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、IRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

(2)オオタバコガ

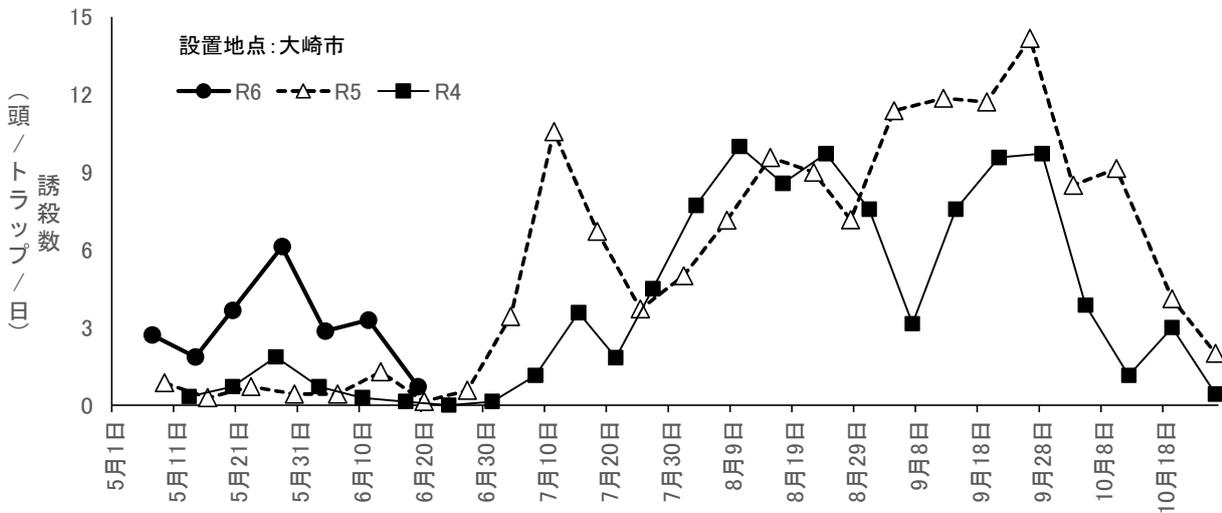


図1 フェロモントラップ調査におけるオオタバコガの誘殺数

- ・生長点付近の茎葉・蕾・花・幼果に食入すると農薬がかかりにくく防除が困難になるため、農作物に食入する前に防除を行う。
- ・トマトやナス等果菜類の被害果、レタスや花き類等の被害株は、内部に幼虫が生息している場合があるので、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。

(3)ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ

- ・葉裏に毛でおおわれた卵塊で産卵し、集団で葉を食害するので、見つけ次第除去する。
- ・初発の防除後にも被害が見られる場合は、成虫の飛来が多い状況であるため、被害葉の除去とともに、7～10日間隔で薬剤をローテーション散布し、若齢幼虫を防除する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム